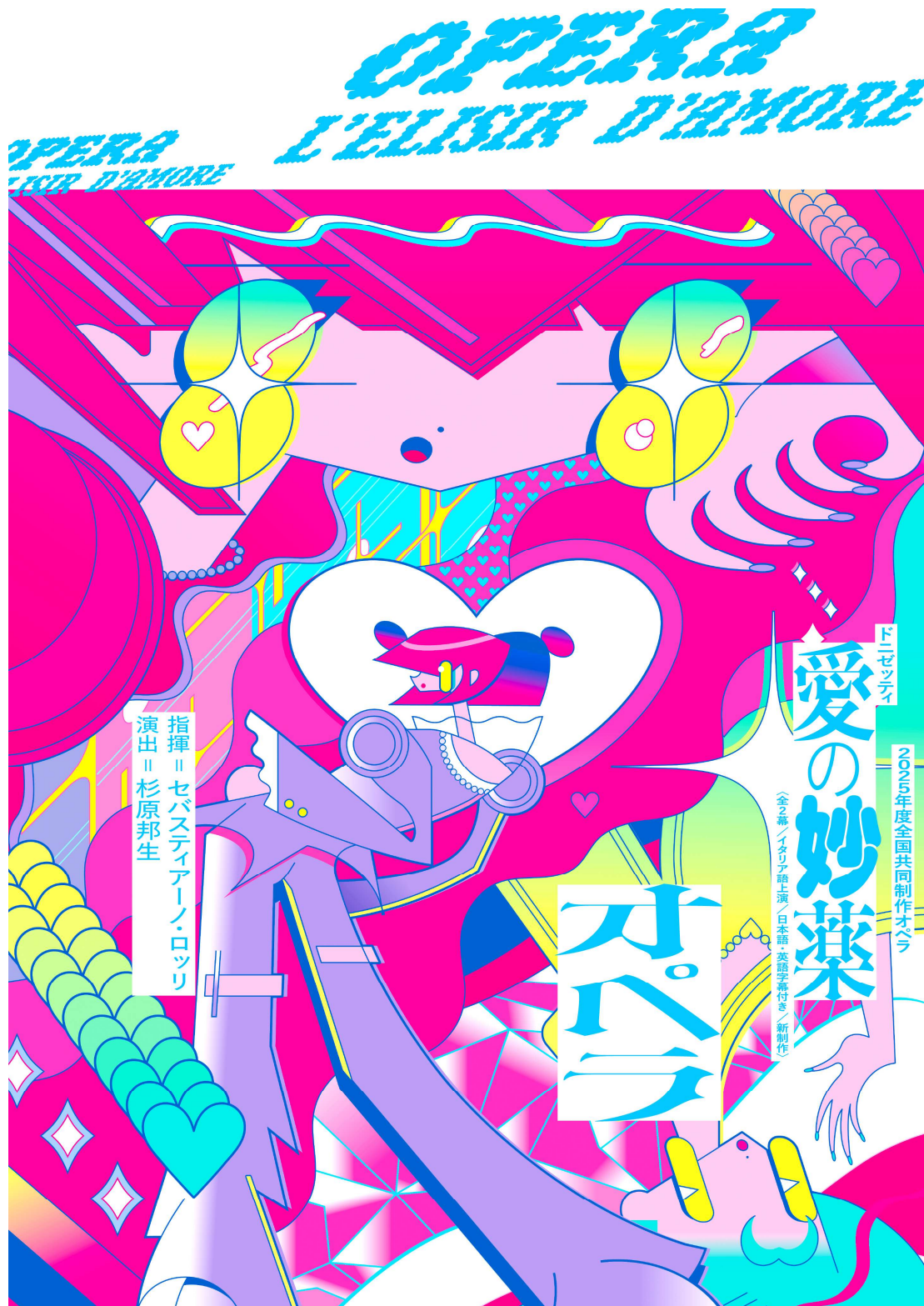


<Press Release>

2025 年 5 月 29 日 (木) 11:00 情報公開

バルカント・オペラのスペシャリストとしても名高いセバスティアノー・ロツリと、
オペラ初演出 杉原邦生によるコラボレーション



2025 年～2026 年 (全 3 会場 3 公演)

2025 年	11 月	9 日 (日)	東京	東京芸術劇場
2025 年	11 月	16 日 (日)	大阪	フェニーチェ堺
2026 年	1 月	18 日 (日)	京都	ロームシアター京都 (開館 10 周年記念事業)

現代に生まれ変わる！

とびきりハッピーでカワイイ ロマンティック・コメディ

美人で聡明、ちょっと勝ち気な娘アディーナと、彼女に恋する純真無垢な青年ネモリーノが、偽の惚れ薬“愛の妙薬”によって結ばれるロマンティック・コメディ。
テノール屈指の名アリア「人知れぬ涙」をはじめ、「受け取って、私のおかげであなたは自由」「この薬はなんでも治します」などの名曲が、コミカルでちょっと切ない恋物語を美しく彩ります。

主宰カンパニー「KUNIO」でのプロデュース公演をはじめ、ギリシャ悲劇から歌舞伎、現代劇まで幅広いジャンルを手掛けてきた**演出家・杉原邦生が初のオペラ演出**に挑みます。指揮は、**ベルカント・オペラのスペシャリストとしても名高いセバスティアーン・ロツリ**。**日本&海外混成による新進気鋭の歌手陣**とともに織りなす、**最高にハッピーでカワイイ『愛の妙薬』**が、いま幕をあける…！

■全国共同制作オペラとは

全国の劇場・音楽堂、芸術団体等が連携し、単館では成しえない、独創的かつ高いレベルのオペラを新演出で制作するプロジェクト。2009年度から開始し、野田秀樹演出の『フィガロの結婚～庭師は見た！～』（2015年度/10都市13公演）、岡田利規演出の『夕鶴』（2021年度/3都市3公演）、野村萬斎演出の『こうもり』（2023年度/3都市3公演）、森山開次演出の『ラ・ボエーム』（2024年度/7都市8公演）など実績を積んでいる。

特設サイト



演出家・出演者による記者会見を10月9日(木)に予定しています

■『愛の妙薬』あらすじ

純朴な農夫ネモリーノは村一番の美人である農場主の娘アディーナに夢中。軍曹のベルコーレが彼女を口説くのを聞き、ネモリーノも勇気をふるって告白するが相手にされない。そこへやって来たインチキ薬売りのドゥルカマーラ博士が、「愛の妙薬」と称した安物のワインをネモリーノに売りつける。酔っ払ったネモリーノは急に強気になるが、態度の豹変っぷりに怒ったアディーナはベルコーレとの結婚を宣言。必死のネモリーノはさらに妙薬を買うお金を得るために軍隊に入隊する。彼の愛情に心を打たれたアディーナはネモリーノについに愛を告白、ふたりは晴れて結ばれるのだった。

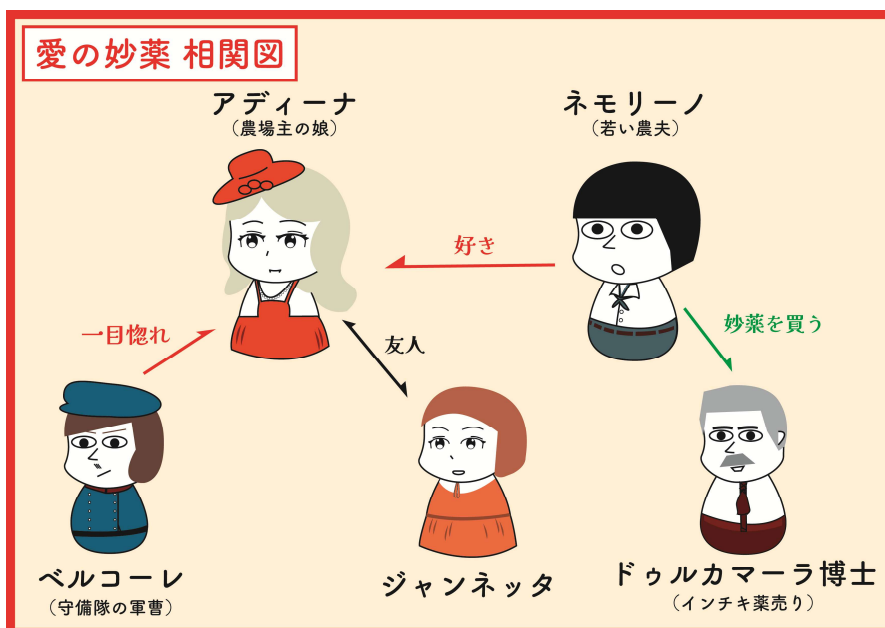
◆幕ごとのあらすじ詳細

【第1幕】

スペイン・バスク地方の小さな農村。美人で聡明な農場主の娘アディーナは、『トリスタンとイゾルデ』の本を読んでいる。内気で純真無垢なネモリーノは、そんな彼女を遠くからうっとり見つめている。アディーナは、トリスタンの飲んだ惚れ薬によって恋に落ちるイゾルデ姫の物語を村人たちに読み聞かせている。そこへベルコーレ（軍曹）が兵隊たちと共に登場、アディーナに目を留める。ベルコーレはアディーナを口説こうとするが、アディーナは考えさせてとその場を退く。ネモリーノも彼女を呼び止めるが、軽くあしらわれる。村の広場に薬売りのドゥルカマーラ博士が到着し、ネモリーノに「惚れ薬」と偽って安物のワインを売りつける。明日になれば効果が出ると信じているネモリーノは、酔いも手伝ってアディーナに強気な態度をとってしまう。自尊心を傷つけられたアディーナは、ベルコーレと結婚すると宣言。しかも、「軍隊明朝出発」の報が届くので今日中に式をあげることに。驚いたネモリーノは、ドゥルカマーラの助けを求めて大慌てで走っていく。

【第2幕】

アディーナとベルコーレの結婚祝いの席。ネモリーノは「愛の妙薬」の効き目を早めるためにもう一本所望するが、払うお金がない。軍隊に入ればお金がもらえると聞いたネモリーノは、ベルコーレに入隊を志願する。ちょうどその時、ジャンネッタと村娘たちの間では「ネモリーノが叔父の莫大な遺産を相続した」という噂が。娘たちに急にちやほやされたネモリーノは、薬の効果が出たのだと勘違いする。その様子を見たアディーナは困惑するが、ドゥルカマーラから「愛の妙薬」を買うために入隊したことを聞き、ネモリーノの愛情の深さに心を打たれる。そして、アディーナはネモリーノの入隊契約書を買戻し、ベルコーレとの結婚も放棄する。二人は本心を告げ、永遠の愛を誓い合う。ベルコーレは潔くアディーナをあきらめ出発。惚れ薬が効いたと得意げなドゥルカマーラは、皆に見送られて賑々しく村を去っていく。



■メッセージ

セバスティアノー・ロッリ(指揮) Sebastiano Rolli (Conductor)

ロマン派喜歌劇の礎となった『愛の妙薬』を深く理解するには、それ以前の様式との比較が鍵となります。それまでイタリア・メロドラマの喜劇といえば、登場人物も音楽も、共感が望めないものでした。そんな典型を覆したのが、1832年生まれの今作です。観客が登場人物たちと一緒に泣いたり笑ったりできるようになったことは、当時、大変画期的な出来事でした。背景には、フランス革命で見いだされた、社会の平等への理想や憧れがあります。喜劇は社会参加の場となり、劇場は娯楽としての空間から成熟へと向かう契機となりました。ドニゼッティの特筆すべき音楽的手法は感情移入を誘い、狡猾なドゥルカマーラ博士や、貧農のネモリーノをはじめとした登場人物へ観客は自身を投影していきます。それまで女王など高貴な人物のための楽器であったハープが、農民の若者の涙ぐましい歌声を支えるようになった変化には、人間の気高さとは出自などの生得的なものではなく、精神的なものであるというメッセージが込められています。ベートーヴェン、そしてシラーも想いを託した「人類みな兄弟」という言葉は、今作のドニゼッティの声を通して、より強く、今を生きる私たちに響くことでしょう。

セバスティアノー・ロッリ

■プロフィール

北イタリアのコロルノ生まれ。パルマのアッリーゴ・ボーイト音楽院とミラノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院を経て、マルチェロ・コナティ、ピエルルイジ・ペトロバリ等著名な音楽学者へ作劇法を師事。オペラに精通した指揮者で、パルマのヴェルディ音楽祭、ベルガモのドニゼッティ音楽祭、カターニアのベッリーニ音楽祭と定期的に協働し、ヴェルディ、ドニゼッティ、ベッリーニの批判校訂版の初演を監督する等ヴェルディ、ベルカント・オペラのスペシャリストとしても名高い。「セビリアの理髪師」、「チェネレントラ」、「アルジェのイタリア女」等ロッシーニ作品の演奏も豊富である。イタリア、ドイツ、フランス等欧州各国の重要な歌劇場へ数多く出演。共演する歌手に、レナート・ブルゾン、ソニア・ガナッシ、マリエッラ・デヴィーア、エヴァ・メイ、フアン・ディエゴ・フローレス、ジェシカ・プラット等がいる。元アルトゥーロ・トスカニーニ財団及びミラノ・スカラ座財団楽譜解釈法並びに発声法教授。著作に「音楽劇の巨匠ジュゼッペ・ヴェルディ」、「ジュゼッペ・ディ・ステファノーその個性」等、ダイナミック、ボンジョヴァンニ各レーベルにDVD、ブルーレイがある。



■メッセージ

杉原邦生（演出） Kunio Sugihara (Director)

〈演出家〉という肩書きを主として活動しているからには、いつかオペラの演出をしたいと思い続けてきました。なので、「初めまして、お待ちしております」という気持ちです。しかも、どちらかといえば〈悲劇の演出家〉に属する僕にとって〈喜劇〉というのも新鮮で、「そうきましたか!」という思いです。

『愛の妙薬』を初めて観た（聴いた）とき、なんだかカワイイ作品だな、と一番に感じました。スペインのバスク地方の小さな村を舞台に、偽りの恋薬に翻弄される人々の姿が、僕にとってはとてつもなくカワイく思えたのです。いまや〈カワイイ〉は世界共通語となり、その言葉の持つ意味も大きな拡がりを見せています。僕が感じた〈カワイさ〉をキーワードに、祝祭感と多幸感溢れる作品にしたいと思っています。

指揮のセバスティアーン・ロツリさんをはじめ、素晴らしいキャスト、スタッフの皆さんにお集まりいただきました。また、ダンサーには過去に僕の演出作品を彩ってくれた俳優、ダンサーたちが名を連ねてくれました。このメンバーでお贈りする「KUNI オペラ」第一弾（笑）にどうぞご期待ください！

杉原邦生

■プロフィール

演出家、舞台美術家。KUNIO 主宰。

京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）映像・舞台芸術学科卒、同大学院芸術研究科修士課程修了。学科在籍中より演出・舞台美術を中心に活動。2004年にプロデュース公演カンパニー「KUNIO」を立ち上げ、『エンジェルス・イン・アメリカ』、最古のテキスト“Q1”バージョンを新訳で上演した『ハムレット』、上演時間が10時間にも及ぶ大作『グリークス』、大学の恩師でもある太田省吾の名作を鮮烈に蘇らせた『更地』などを上演。「木ノ下歌舞伎」には2006年から2017年まで所属し、『黒塚』『東海道四谷怪談一通し上演』『三番叟』などを演出。

近年の演出作品にCOCOON PRODUCTION 2025『アンサンブルデイズー彼らにも名前はあるー』（25年）、『モンスター』（24年）、東京芸術劇場 Presents 木ノ下歌舞伎『三人吉三郎初買』（24年）・『勸進帳』（23年）、PARCO PRODUCE 2024『東京輪舞』、KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース『SHELL』（23年）、歌舞伎座『新・水滸伝』（23年）、ホリプロ『血の婚礼』（22年）、COCOON PRODUCTION 2022 / NINAGAWA MEMORIAL『パンドラの鐘』、さいたまゴールド・シアター最終公演『水の駅』（21年）、新生パルコ劇場オープニング・シリーズ『藪原検校』（21年）がある。

2018年、第36回京都府文化奨励賞を受賞。



撮影：細野晋司

■出演者

ソプラノ Soprano

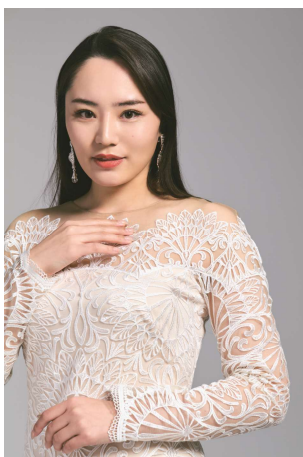
アディーナ役

高野百合絵

Yurie Takano

富山県出身。東京音楽大学、及び大学院を首席で修了。「サントリー1万人の第九」「テレジアミサ」「夏の夜の夢」「三角帽子」などのソリスト、ジルヴェスター、ニューイヤークンサートなどで主要オーケストラとの共演や各地でのリサイタルが好評を博している。オペラでは、佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ2021『メリー・ウィドウ』主役ハンナ・グラヴァリに抜擢され、同オペラ 2023『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ役に続き、2024『蝶々夫人』題名役を可憐な舞台姿と瑞々しい歌唱で喝采を浴びた。他にも、小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XX 子どものためのオペラ『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ役、東大阪市民オペラ『カルメン』題名役で絶賛される。

<https://yurietakano.com/>



©Yuji Ueno

テノール Tenor

ネモリーノ役

宮里直樹

Naoki Miyasato

〔東京・大阪〕

東京藝術大学首席卒業。同大学院修了後、ウィーン国立音楽大学に留学。ウィーンとイタリアで研鑽を積む。これまでオペラでは、東京芸術劇場シアターオペラ『ラ・トラヴィアータ』アルフレードで絶賛を博し、その後も東京二期会『蝶々夫人』ピンカートン、『ファルスタッフ』フェントン、日生劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『ランメルモールのルチア』エドガルド、新国立劇場『ばらの騎士』テノール歌手などで出演。コンサートでも「第九」、ロッシーニ「スターバト・マーテル」、ヴェルディ「レクイエム」等で活躍。NHK ニューイヤークンサート、「リサイタル・ノヴァ」「クラシック倶楽部」出演。二期会会員。



©深谷義宣 auraY2

テノール Tenor

ネモリーノ役

糸賀修平

Shuhei Itoga

〔京都〕

武蔵野音楽大学卒業。同大学院及び新国立劇場オペラ研修所修了後、イタリア・フィレンツェへ、その後ベルリンにて研鑽を積む。オペラでは、新国立劇場『フィガロの結婚』ドン・クルツィオ、『カルメン』レメンダード、『ピーター・グライムズ』ボブ・ボウルズ、『ファルスタッフ』バルドルフォ、東京二期会『ダナエの愛』メルクール、『コジ・ファン・トゥッテ』フェランド、チョン・ミョンフン指揮『蝶々夫人』ゴロー、オペラ夏の祭典『トゥーランドット』ボン等で高い評価を得る。コンサートでも「第九」、「カルミナ・ブラーナ」等のソリストとして活躍。地域創造公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)登録アーティスト。二期会会員。



©Taira Tairadate

バリトン Baritone

バルコーレ役

大西宇宙

Takaaki Onishi

〔東京・大阪〕

武蔵野音楽大学・大学院、ジュリアード音楽院修了。シカゴ・リリック歌劇場にてデビュー。2019年に『エフゲニー・オネーギン』で日本オペラデビュー後、国内外の歌劇場で活躍。2025年はアメリカのダラス・オペラ『ラ・ボエーム』、ミネソタ・オペラ『セビリアの理髪師』にデビューし、高く称賛された。五島記念文化賞オペラ新人賞、日本製鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、ホテルオークラ音楽賞、令和5年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。CD「詩人の恋」(ピアノ:小林道夫)をBRAVO RECORDSよりリリース。

<https://takaaki.com/>



©Marco Borggreve

バリトン Baritone

ベルコーレ役

池内響
Hibiki Ikeuchi
〔京都〕

兵庫県姫路市出身。東京藝術大学大学院オペラ科修了。2015年、日生劇場《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロールでオペラ・デビュー。2017年に渡伊。ミラノで研鑽を積み、2018年に第56回ヴェルディの声国際コンクール入選（伊）。2019年第10回サルヴァトーレ・リチートラ声楽コンクール第1位（伊）、2022年第20回東京音楽コンクール声楽部門第1位及び聴衆賞等多数受賞。2024年は全国共同制作オペラ《ラ・ボエーム》マルチェッロで出演し絶賛された。2025年はNHKニューイヤーオペラコンサート、びわ湖ホールプロデュースオペラ《死の都》フランク、日本フィル《仮面舞踏会》レナート、大宮ソニックシティ《平家物語～平清盛～》タイトルロールなどで出演予定。第37回姫路市芸術文化奨励賞、第25回坂井時忠音楽賞、2020年兵庫県芸術奨励賞の各賞を受賞。



©Taira Tairadate

バリトン Baritone

ドゥルカマーラ博士役

セルジオ・
ヴィターレ
Sergio Vitale

イタリア生まれ。声楽をレナータ・スコット、レナート・ブルゾン、アンナ・ヴァンディハ師事。M. バッティスティニ国際声楽コンクール第1位受賞。2010年ベルリン・ドイツ・オペラにデビュー以降、ナポリのサン・カルロ劇場、カタニアのベッリーニ劇場、トリノの王立劇場、ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティヴァル、フィレンツェ5月音楽祭、トゥールーズ・キャピトル劇場等欧州を中心に活躍。2013年グスターヴォ・ドゥダメル率いるミラノ・スカラ座日本ツアーへ出演。2023年メトロポリタン歌劇場に初登場を果たす。共演する指揮者にリッカルド・ムーティ、ダニエル・オーレン、ミケーレ・マリオッティ等がいる。



©Pepe Russo

ソプラノ Soprano

ジャンネッタ役

秋本悠希
Yuki Akimoto

尾道市生まれ。京都市立音楽高等学校、東京藝術大学声楽科卒。同大学院博士課程修了。英国王立音楽院オペラ科を日本人として初めて卒業。平和堂財団芸術奨励賞、コンセール・マロニエ21声楽部門第1位、リチャード・ルイス・アワード第1位、日本音楽コンクール木下賞、英国音楽コンクール2021第1位等多くの受賞歴を持ち、これまでにマレク・ヤノフスキ、ジョナサン・ノット、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢等著名な指揮者・楽団と共演。2018-2020、ロンドンのセインスベリー劇場、ウィグモア・ホールへ出演して高い評価を得る。



©Noriyuki Ito

■ダンサー

福原冠

Kan Fukuhara

俳優。神奈川県横浜市出身。劇団「範宙遊泳」所属。2015年からインタビューによって作品を立ち上げるユニット「さんぴん」を始動。劇団以外でも古典劇から現代劇まで様々な世界観の中で新境地を開拓し続けている。近年は身体能力を活かしてダンス作品にも出演。フラットな表現と鋭利な表現を行き来する、浮遊感が魅力である。2024年、アジアン・カルチュラル・カウンスル個人フェローとしてNYに滞在。主な出演作に範宙遊泳『バナナの花は食べられる』『心の声など聞こえるか』KAAT 神奈川芸術劇場『愛と正義』『ジャズ大名』『人類史』東京芸術劇場『邦子狂詩曲』ロロ『BGM』『オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト（カタログ版）』KUNIO『グリークス』CATプロデュース『HAMLET-ハムレット-』など。



©Tommy Lancelay

米田沙織

Saori Yoneda

千葉県袖ヶ浦市出身。幼少よりクラシックバレエを習う。桜美林大学にてコンテンポラリーダンスに出会い、木佐貫邦子に師事。大学卒業後はダンサー・俳優として活動。これまでに『鯨-hatahata-』（神里雄大・白神ももこ）、矢内原美邦、田畑真希らの作品に出演のほか、自身のソロ作品も発表する。ダンスカンパニー「Baobab」所属。初期メンバーとしてほぼ全ての公演に出演する。近年の出演作に【舞台】『ひかりとからだのふれあうところ』（24/中屋敷南振付・演出）、『ジャズ大名』（23/福原充則 演出）、『ボレロ-或いは、熱狂。』（23/北尾亘 振付・演出）、『パンドラの鐘』（22/杉原邦生 演出）がある。



内海正考

Masataka Uchiumi

1988年生まれ。北海道出身。桜美林大学総合文化学群演劇専修卒業。在学時より俳優として活動していたが、近年はコンテンポラリーダンスに活動の軸を移す。また三味線奏者として、ダンサーとのセッションパフォーマンスを行ったり、学校や福祉文化施設でのワークショップアシスタントを務める。2019年より関わり PUNCTUMUN にダンサーとして参加。以降の全作品に出演。その他、主な出演作に COCOON PRODUCTION 2022/NINAGAWA MEMORIAL『パンドラの鐘』、モモンガ・コンプレックス『わたしたちは、そろっている。』（フェスティバル/トーキョー20主催）等がある。



©Hideto Maezawa

水島麻理奈

Marina Mizushima

1994年11月11日生まれ。岡山県出身の30歳。舞台、映画、テレビドラマなど、様々なジャンルで活動中。最近では、縦型ショートドラマへの出演が話題となり、「マイナビショードラアワード2025」で出演作品が大賞を受賞、自身も出演者賞を受賞。これまでの出演作に EX『王様戦隊キングオージャー』（エレガンス・モーン役）、EX『家政婦のミタゾノ』（三ツ輪佳乃役）、YTV『探偵が早すぎる』（阿部津音役）、CX『SUPER RICH』（飯田愛羅役）映画『科捜研の女-劇場版-』（森友希枝役）『おっさんのパンツがなんだっていいじゃないか！』など。最近の舞台出演作は、Mayolesque『元彼鎮魂歌〜モトカレクイエム』脚本・演出：万葉、神奈川芸術劇場プロデュース『SHELL』作：倉持裕 演出：杉原邦生、音楽朗読劇『あなたのいない広さだけ』脚本・演出：塩田泰造など。



井上 向日葵

Himawari Inoue

1997 年、静岡県出身。
2019 年 3 月、京都造形
芸術大学(現・京都芸術
大学)舞台芸術学科卒。
大学入学を機に俳優活
動を開始して以降、京
都・東京を拠点に、演
劇作品、ダンス作品、
MV、ラジオドラマ等に
出演。主な出演作はド
ラマ『ちむどんどん』、
舞台『水の駅』『グリー
クス』『投げられやすい石』『岬のマヨイガ』
『ヒッキー・カンクーントルネード』『殻』『世界
が朝を知ろうとも』『蜘蛛巣城』『BGM』『フート
ボールの時間』『ボイラーマン』『138 億年未満』『昨
日の月』など。公演待機作として、豊岡演劇祭
2025 ディレクターズプログラム松原俊太郎／小
野彩加 中澤陽 スペースノットブランク舞台『魔
法使いの弟子たちの美しくて馬鹿げたシナリオ』
がある。



©toru hiraiwa

宮城 優都

Yuto Miyagi

沖縄県出身。桜美林大学
芸術文化学群演劇・ダン
ス専修卒業。小学校～高
校卒業までの 9 年間は野
球部で活動。大学卒業と
同時に、コクーン アクタ
ーズ スタジオに第 1 期生
として入学し、松尾スズ
キをはじめ、演劇界の第
一線で活躍する講師陣の
もとで、演技・日本舞踊
・ダンス・歌などを幅広
く学ぶ。スタジオの発表公演として、松尾スズキ
脚本・杉原邦生演出の『アンサンブルデイズー彼
らにも名前はあるー』に出演。舞台を主な活動の
場とし、ミュージカルコンサートなどにも出演。
現在はフリーで俳優業に精進し、日々邁進してい
る。



■合唱団

ザ・オペラ・クワイア [東京]
堺 + 京都公演特別合唱団 [大阪・京都]

■管弦楽

ザ・オペラ・バンド [東京]
大阪交響楽団 [大阪]
京都市交響楽団 [京都]

■スタッフ

美術：金井勇一郎
照明：高田政義 (RYU)
音響：石丸耕一 (東京芸術劇場)
衣裳：丁瑩
ヘアメイク：国府田圭
振付：北川結、仁科幸 (モモンガ・コンプレックス)
字幕：小田知希 (日本語)、家田淳 (英語)
合唱指揮：辻博之、鍋田遼人
副指揮：松川智哉
コレペティトゥア：江澤隆行
演出助手：根岸幸
舞台監督：酒井健
プロダクションマネジャー：關秀哉、柴田貴槻 (アシスタント)
宣伝美術：加藤秀幸 (grind house)
宣伝イラスト：リック

■公演スケジュール&チケット情報

2025 年度 全国共同制作オペラ

ドニゼッティ作曲／歌劇『愛の妙薬』

〈全2幕／イタリア語上演／日本語・英語字幕付き／新制作〉

会場・日程	チケット情報・主催・お問合せ
東京芸術劇場 コンサートホール 2025 年 11 月 9 日(日) 14:00 開演	[料金] SS席:22,000円、S席:19,000円、A席:17,000円、B席:13,000円、C席:9,000円、D席:6,000円、高校生以下:1,000円 [発売] 一般発売 7月4日(金)／芸劇メンバーズWEB先着先行 6月27日(金) [主催] 東京都、東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) [問合せ] 東京芸術劇場 03-5391-2111(土日祝日を除く 9:00~17:00) [公演情報] https://www.geigeki.jp/performance/concert301/
フェニーチェ堺 大ホール 2025 年 11 月 16 日(日) 14:00 開演	[料金] S席:13,000円、A席:11,000円、B席:9,000円、C席:5,000円 [発売] 一般発売 6月14日(土)／サカイメイト先行 5月22日(木) [主催] フェニーチェ堺(公益財団法人堺市文化振興財団) [問合せ] フェニーチェ堺 072-223-1000(9:00~20:00) [公演情報] https://www.fenice-sacay.jp/event/27388/
ロームシアター京都 メインホール 2026 年 1 月 18 日(日) 14:00 開演	[料金] SS席:13,000円、S席:11,000円、A席:8,000円、B席:6,000円、C席:4,000円、D席:3,000円、S席25歳以下:5,000円、S席18歳以下:3,000円 [会員特別価格] SS席:12,000円、S席:10,000円 [発売] 一般発売 6月28日(土)／会員先行 6月21日(土) [主催] ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 [特別協賛] 日東薬品工業ホールディングス株式会社  日東薬品工業HD株式会社 [問合せ] ロームシアター京都チケットカウンター 075-746-3201(10:00~17:00) [公演情報] https://rohmtheatrekyoto.jp/event/134533/

(2025 年 5 月 29 日現在)

■共同制作館

東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

フェニーチェ堺(公益財団法人堺市文化振興財団)

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

■助成・後援

助 成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業(共同制作支援事業))

独立行政法人日本芸術文化振興会

特別協賛:日東薬品工業ホールディングス株式会社(京都公演のみ)

後 援:イタリア大使館



■2025 年度 全国共同制作オペラ 歌劇『愛の妙薬』プレスキット

右側のQRコードからダウンロードいただけます。

（本プレスリリース・メインビジュアル画像、出演者写真）

※各画像は、本プロジェクトの広報使用のみに限定させていただきます。

※画像使用の際は、ファイル名にあるクレジットを併記ください。

※ご使用の際は、必ずご連絡いただきますようお願い申し上げます。

ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

プレスキット



【本リリースに関するお問合せ先】

2025 年度 全国共同制作オペラ 広報担当館

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

担当：儀三武、後藤、成瀬、和田

電話：075-771-6051（9:00～17:00）

FAX：075-746-3366

mail：press@rohmtheatrekyoto.jp

【東京公演に関するお問合せ先】

東京芸術劇場

03-5391-2111（9:00～17:00 土日祝日を除く）

【大阪公演に関するお問合せ先】

フェニーチェ堺

072-223-1000（9:00～20:00）

【京都公演に関するお問合せ先】

ロームシアター京都

075-771-6051（9:00～17:00）